

1. 評価結果概要表

平成 21 年 1 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503882		
法人名	有限会社 ケアプロダクツ		
事業所名	グループホーム あじさい藤野		
所在地	札幌市南区藤野3条4丁目15-60 (電話) 011-594-6860		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】 (20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 16人, 非常勤 4 人, 常勤換算	18 人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ銅板 造り		
	2階建ての 1~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円・ 50,000円		
その他の経費(月額)	水光熱費15,000円 暖房費15,000円(11月~3月)		
敷 金	有 (36,000・50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	700 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (12月 5 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	3 名	要介護 2	7 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 78.4 歳	最低 63 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院・ときわ病院・日の出歯科真駒内診療所
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム あじさい藤野」は開設して2年未満の新しい事業所である。小高い丘を登って行くと閑静な住宅街の一角に違和感なく建っている。事業所の裏には花壇、畑、雑木林があり、季節感が感じられる自然環境に恵まれている。居室、居間、トイレ等全てがバリアフリーになっており、目配りが行き届く配置になっている。利用者本位の意志を大切に自由で誇りのある暮らしを続けることを、管理者、職員が積極的に熱意を持って支援している。管理者、職員間の信頼関係も厚く、職員が一体となって、利用者のよりよい暮らしの実現に向けて取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題とされた「外部評価を活かした具体的取り組み」「運営推進会議を活かした取り組み」「市町村との取り組み」「重度化終末期に向けた取り組み」などの改善課題があり、職員は少しずつ着実に改善に向けて取り組んでいる。今後更なる改善に期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価に取組み、その内容を職員間で検証し管理者、リーダーがまとめている。評価の意義を管理者、職員は理解し、日々のケアの見直しに繋げていくよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会役員、民生委員、地域包括センター職員、管理者、職員が参加し、今年度は1度会議を開催し、事業所の現況報告、行事案内や報告を議題として話し合いがもたれ、そこでの意見を運営に反映できるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には、気軽に何でも話し合えるように雰囲気作りに配慮している。表出された意見・要望については、運営に反映させている。玄関に「苦情箱」も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、町内会行事の夏まつり、盆おどりに参加するなど積極的に交流を図っている。町内会活動の中に「福祉推進会」があり、町内の人達が「紙しばい」を見せに來たりしている。また、事業所の焼き肉パーティーや、収穫祭に参加するなど日常生活を通じて、地域との交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念「幸輪」としている。利用者の幸せの輪を広げ、その人らしさを尊重する理念を作り上げている。	○	原理念を基盤に地域密着型サービスの役割を理解し、パンフレットや理念の中に、「地域の一員としての」言葉を入れるなど、果たすべき役割を反映した理念の内容になっている事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の目に付きやすい場所に掲示してある。朝の申し送り時に職員全員で唱和し、ケア会議時に確認したり、ケアに迷ったときには理念に立ち返り日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事の盆おどりに参加するなど積極的に交流を図っている。町内会活動の中に「福祉推進会」があり、町内の人達が「紙しばい」を見せに来たり、事業所の焼き肉パーティー、収穫祭に参加するなど日常生活を通じて地域との交流に努めている。		
ホームの					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、その内容を職員間で検証し管理者、リーダーがまとめている。評価の意義を管理者、職員は理解し、日々のケアの見直しに繋げていくよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員、民生委員、地域包括センター職員、管理者が出席、今年度一回会議を開催、事業所の現況報告、利用者の状況などを議題として話し合いが持たれ、そこでの意見を運営に反映出来るように取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当者とは、行き来する機会や相談する機会が多く、双方向的な協力や連携に努めサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や行事時には、利用者の暮らしぶりや、健康状態についてその都度報告している。毎月「あじさい便り」を発行して、個別にコメントを書き入れ日常生活の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、気軽に何でも話し合えるような雰囲気作りに配慮している。表出された意見・要望について運営に反映させている。玄関に「苦情箱」も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの利用者や職員の交流が日常的に行なわれており、利用者、職員の馴染みの関係が構築されている。廊下の壁には介護職員が写真入りで紹介されており、家族にも配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内を掲示したり、職員に声かけして知らせているが参加する職員はいない。また、内部研修についても実施していない。	○	職員の経験などを踏まえ外部研修、内部研修など、年間計画を立て学びの機会を確保して全職員が研修に参加できるよう、職員育成の具体化に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他事業所との交流会はあるが、他法人グループホームとの交流はない。	○	他法人の事業所との交流や連携の必要性を認識し、職員レベルでの相互訪問活動など、協働しながら質の向上に取り組む事を期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者、リーダーが自宅訪問し本人、家族から今までの暮らしぶりなどを伺い、出来る限り事業所見学の機会を持つなど、事業所の雰囲気馴染めるように家族と相談しながら工夫や配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の関わりの中で、利用者の生活歴を把握し一人ひとりの出来ることを大切にしながら、出来ない部分を支えている。利用者の得意分野や長年の経験の中から学ぶことも多く、ともに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけをしながら、動作や表情から利用者一人ひとりの思いを受け止めている。また、職員間で意見交換を行い、本人の希望や意向を尊重した支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の生活や見守りの中で、本人の意見、家族からの要望、職員間の気付きや意見などの情報を集め、カンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い計画的に見直しが行われている。利用者の心身の状態変化や、本人、家族の要望や意向を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院や、外出など本人家族の状況に応じて、多機能性を生かした柔軟な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する主治医がおり定期的に受診している。また、協力医療機関より毎月往診を受け、緊急時には適切な医療を受けられる体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の医療連携体制はとれているが、本人、家族との話し合いはできていない。	○	重度化や終末期の対応指針及び同意書などを明文化し、出来るだけ早い時期から本人、家族の意向を踏まえた話し合いを持つことが必要である。また、全職員が講習会へ参加する事でターミナルケアに対応できる体制を整え、関係者間で方針の共有を図る事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者一人ひとりの誇りを大切にし、やさしい声掛けや敬意のある対応に配慮している。また、記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した取り組みが行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、利用者の希望を尊重して、押し付けにならないよう出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力、食べる意欲を優先させながら自力でゆっくりと食事ができる支援に努めている。また、個々の身体状況に合わせ、ミキサー食の支援も行なっている。利用者は職員と一緒にスーパーへ食材を買いに出かける事も有り、楽しめる場面作りを提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決まっているが、出来る限り本人が希望する時間、タイミングに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのペースに添いながら、書道、クリスマスリース作りや、買い物など、利用者の力量に合わせた楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの、その日の体調を考慮しながら、散歩、買い物などに付き添い、外気に触れる機会を支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関には施錠せず、鍵のない自由な暮らしを大切にしている。玄関内のドアにはセンサーが設置され、安全に配慮した見守りを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は、消防署の協力のもと今年度は1回実施している。地域住民の協力体制の確保までには至っていない。	○	災害はいつ、どの時間帯に発生するか分らず、夜間の時間帯も想定した避難訓練が必要である。地域住民と防災面でも協力関係を築き、実践的な訓練が実現する事を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分摂取量は細かく把握し、一日の量がわかるように記録されている。また利用者の体調に合わせた食事の提供を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下、居室、トイレなど全てがバリアフリーになっており、廊下の壁には利用者の笑顔の写真が貼ってある。また、事業所の裏庭には花壇、広い畑があり、職員と利用者が一緒に花、野菜を育てるなど生活感が感じられるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた馴染みの家具や仏壇、装飾品など持ち込まれ、それぞれの好みに応じた環境の中で居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。